

製品名: DGK- α ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09946**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	80kDa

抗原情報

遺伝子名	DGKA
別名	DGKA; DAGK; DAGK1; Diacylglycerol kinase alpha; DAG kinase alpha; 80 kDa diacylglycerol kinase; Diglyceride kinase alpha; DGK-alpha
遺伝子 ID	1606.0
SwissProt ID	P23743
免疫原	抗血清はヒト DGKA 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 304-353

背景

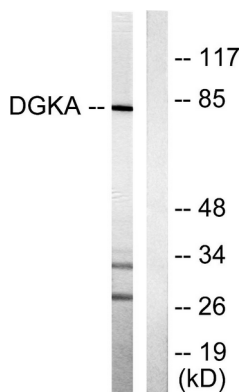
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、真核生物のジアシルグリセロールキナーゼファミリーに属します。細胞内シグナル

伝達経路において、セカンドメッセンジャーであるジアシルグリセロールをめぐってプロテインキナーゼ C と競合する調節因子として機能します。また、ホスファチジルイノシトールの再合成およびジアシルグリセロールのホスファチジン酸へのリン酸化においても重要な役割を果たします。この遺伝子座では選択的スプライシングが起こり、同じタンパク質をコードする 4 つの転写バリエーションが同定されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、触媒活性: $\text{ATP} + 1,2\text{-ジアシルグリセロール} = \text{ADP} + 1,2\text{-ジアシル-sn-グリセロール 3-リン酸}$ 。、酵素調節: カルシウムおよびホスファチジルセリンによって刺激されます。プロテインキナーゼ C によってリン酸化されます。、機能: 細胞刺激により、セカンドメッセンジャーであるジアシルグリセロールをホスファチジン酸に変換し、ホスファチジルイノシトールの再合成を開始して、プロテインキナーゼ C の活性を減弱させます。、類似性: 真核生物のジアシルグリセロールキナーゼファミリーに属します。、類似性: 1 つの DAGKc ドメインを含みます。、類似性: 2 つの EF ハンドドメインを含みます。、類似性: 2 つのホルポールエステル/DAG 型ジンクフィンガーを含みます。、サブユニット: モノマー。、組織特異性: リンパ球およびオリゴデンドログリア細胞。、

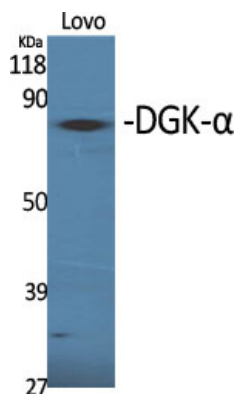
研究分野

グリセロ脂質代謝;グリセロリン脂質代謝;ホスファチジルイノシトールシグナル伝達系;

画像データ



DGKA 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



DGK-α ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析

DGK- α ポリクローナル抗体を用いた Lovo 細胞のウェスタンブロット解析

